

2021年7月5日 宿利会長 開会挨拶

「東京圏の鉄道の中長期的課題への対応とコロナ禍に関するシンポジウム」

皆様こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日は「東京圏の鉄道の中長期的課題への対応とコロナ禍に関するシンポジウム」を開催しましたところ、ご来場の皆様とオンラインによるご参加の皆様を合わせて1200名をはるかに超える大変多くの皆様にご参加の申込みを頂いております。誠にありがとうございます。

本日のシンポジウムの開催に当たりましては、国土交通省の後援をいただいております。また、本日は来賓として、藤井直樹国土交通審議官にご出席いただいております。この後ご挨拶をいただきます。誠にありがとうございます。

さて、我が国における新型コロナウイルスの感染は、残念ながら未だ終息が見通せず、東京都及びその隣接3県では再び感染拡大の様相を呈しており、昨年春来のコロナ禍により、本日のテーマであります鉄道事業をはじめ交通・観光産業は今なお大変大きな影響を蒙り続けております。

他方、私が改めて申し上げるまでもありませんが、この東京圏は稠密な鉄道ネットワークの整備と都市の整備とが相互に連動しながら発展を遂げた、世界にも例を見ない、鉄道など公共交通の利用に大きく依存する大都市圏です。

当研究所では、2012年から東京圏の鉄道事業者6社と共同で、「今後の東京圏を支える鉄道に関する調査研究」を毎年度継続的に実施してきており、その成果については、研究報告会、シンポジウムなどを通じて折々に皆様へご報告を行ってまいりました。

そうした中、去年は、春からの感染拡大を受け、未だコロナ禍が収束していない段階ではありましたが、コロナ禍による個人や企業の行動変容の萌芽が観察される時期の10月26日に、本日ご登壇いただく森地先生と鉄道事業者3社の皆様、そして都市と鉄道の分野の有識者にご協力いただき、「新型コロナウイルスが鉄道輸送と都市構造に及ぼす影響に関するシンポジウム」を開催いたしました。

コロナ禍による影響を含めて、今後の鉄道事業者の対応や都市のあり方など中長期的・総合的な交通施策・都市施策を検討していくためのいわばキックオフとして開催したものでありますが、本日のシンポジウムと同様に、会場来場者を含め1082名もの大変多くの皆様にご視聴いただきました。このテーマに関する皆様の関心の高さを痛感した次第です。

本日のシンポジウムは、その第2弾として、その後の共同研究の進展やコロナ禍の影響の長期化を踏まえて、このテーマについてさらに踏み込んで検討・考察するものです。

本日のシンポジウムでは、まず最初に、この共同研究を委員長としてけん引していただいております、政策研究大学院大学名誉教授で当研究所の政策アドバイザーとして日々大変お世話になっております森地茂先生から「長期的社会環境の変化とコロナ禍が東京圏の鉄道利用に及ぼす影響」と題した基調講演をして頂きます。

その後、鉄道事業者6社の代表の皆様からそれぞれ「コロナ禍の影響と対応」をテーマとして特別講演をしていただくことになっております。森地先生をはじめご登壇頂く鉄道事業者6社の皆様に対しまして厚く御礼申し上げます。

後半では、2019年から2020年にかけて行ったこの共同研究の成果の中から3つのテーマを取り上げまして、当研究所の3名の研究員より報告を行います。

当研究所では、新型コロナウイルスが交通・観光各分野に与える影響を引き続き見極めるとともに、ポストコロナの時代に向けた対応策を検討するための取組みを今後とも継続的に実施し、適宜研究報告会、シンポジウム、セミナー、コロキウムなどの形で公表し、皆様とともに考察を深めてまいる所存です。

最後に、本日のシンポジウムにご参加いただきました多くの皆様にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。